

おしゃれで機能的な革製

車いすにぴったりのかばんを姫路から――。姫路市の革かばん職人西本敏恭さん(53)が6月から、車いすの利用者に使い勝手のいい製品づくりにチャレンジしている。専用の工房を構えて9月の販売開始を目指す西本さんは「使う人の目線に立った機能的で、おしゃれなオリジナルかばんを」と張り切り、弟子の2人と作業に励んでいる。

西本さんら3人挑戦

西本さんは20年前に姫路で独立し、2000年からは皮革業者らでつくる市皮革産業活性化事業研究会の支援を受けて、JR姫路駅前の商店街でかばん作りを指南する教室を開催。主婦らに裁断や縫製のコツを教えたが、家族が車いす生活をしているという参加者が「似合うかばんがない」と話すのを聞き、今回の商

車いす用かばん 姫路から発信

試作重ね、9月販売目指す

品企画を思いついた。拠点は同市野里の「アトリエ千異多」。3階建てに建て替えた実家で延べ210平方メートルの新工房をオープンし、うち2階の70平方メートルを専用スペースに充てている。現在、車いすを利用する原田英樹さん(33)、片山裕滋さん(18)の2人と車いすの背もたれに提げるかばんや足元に付ける携帯電話入れ、たばこケースなどを試作中だ。

西本さんは「車いすに乗る人の経験を生かした工夫を凝らし、ハンデを持つ人の自立支援にも役立つことができればうれしい」と話している。問い合わせは千異多(079・224・204)へ。



車いす用のかばんづくりに励む(左から)片山さん、西本さん、原田さん(姫路市の「アトリエ千異多」)